

公益財団法人かめのり財団

2023年度事業報告

2023(令和5)年4月1日～2024(令和6)年3月31日

2023(令和5)年度は、昨年度に引き続き事業の大部分を対面とオンラインを併用し実施した。基本方針として、定款にうたわれる3つの柱

1. 高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業
2. 青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業
3. それらを推進するために、かめのり賞の顕彰、講演・シンポジウム等  
その基盤支援事業

を実施することにより、日本とアジア・オセアニア諸国との相互理解・国際理解の促進を図る努力をした。以下、2023年度主要事業の実施状況と成果を報告する。

1. 青少年留学支援事業

(1) 高校生交換留学支援

同窓会・ネットワークの準備に向けて過去の事業参加者の情報整理をおこなった。

(2) 大学院留学生支援

以下の奨学生7名に月額20万円を支給した。

2023年度 大学院留学アジア奨学生

郭 凱琳 (マカオ)	Ms. Kok Hoi Lam	カク カイリン	2022.4-2024.3	関西学院大学大学院 経営戦略研究科 経営戦略専攻
麻 俊凡 (中国)	Ms. Ma Junfan	マ シュンホン	2023.4-2026.3	上智大学大学院 文学研究科 新聞学専攻 (博士後期)
曹 怡 (中国)	Ms. Cao Yi	ソウ イ	2023.4-2026.3	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 (博士後期)
陳 籽言 (中国)	Ms. Chen Ziyang	チェン ジアン	2023.4-2025.3	横浜国立大学大学院 環境情報学府 自然環境専攻 生態学プログラム (博士前期)
具 弦俊 (韓国)	Mr. Koo Hyeonjun	グ ヒョンジュン	2023.4-2026.3	立教大学大学院 社会学研究科 社会学専攻 (博士後期)
黄 沐春 (中国)	Ms. Huang Muchun	コウ モクシュン	2023.4-2025.3	早稲田大学大学院 商学研究科 (博士前期)
侯 心琦 (台湾)	Ms. Hou Sin Chi	ホウ シンチ	2023.4-2025.3	名古屋大学大学院 経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期)

大学院生へのサポートの一環として、2023年9月6日～7日の2日間、夏の研修交流会を函館にて実施し、奨学生7名が参加した。各自の研究テーマの発表と意見交換を行った他、OBOGによるオンライン講義を受講した。なお、8日は函館市内にて地方都市体験プログラムを実施予定

だったが、台風接近のため予定を変更し、7日午後帰路に就いた。

加えて、2024(令和6)年度採用の「大学院留学アジア奨学生」の募集・選考を行った。指定校24校のうち4校から候補生の推薦があり、2024年3月4日に選考試験(面接)を実施し、奨学生選考委員会により以下の3名を奨学生として決定した。

インドネシア	I Wayan Yuuki	イワヤン ユウキ	2024.4-2026.3	立命館大学 スポーツ健康科学研究科 身体運動科学領域専攻
香港	Yun Cheuk Wing	ケンタク エイ	2024.4-2027.3	筑波大学 人間総合科学学術院 教育学学位プログラム
ベトナム	Nguyen Thi Linh	グエンテ イリン	2024.4-2027.3	大阪大学 人文学研究科 言語文化学専攻

## 2. 青少年交流および言語教育支援事業

### (1) 青少年国際交流

新型コロナウイルス感染症も収束の方向になり、国内での受入事業は実施できるが、海外への派遣事業は中高生には時期尚早と考え、大学生レベルの事業から再開した。2023年度は次の5つの事業を実施した。

#### ① かめのりスクール 2023

日本と東南アジアの中高生を対象に、2023年6月25日、7月9日、7月23日の計3回のオンラインセッションと、8月1日～8月4日の3泊4日でL stay & grow 晴海にてメインプログラムを実施した。4年ぶりの再開となった今年は、日本の中高生15名と、東南アジア5ヵ国(インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシアより各3名)の日本語を学ぶ15名の計30名が参加し、「わたしのまちはサステイナブル?」をテーマにフィールドワークやグループ発表を通して友好と相互理解を深めた。(日本人応募は24名、4年ぶりの再開)

#### ② かめのりカレッジ 2023

国内在住の大学生を対象に、2023年7月22日にオリエンテーション、8月29日～9月1日の3泊4日で、L stay & grow 晴海にてメインプログラムを実施した。日本人16名に加え、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアの大学生4名を招へいた。今後グローバルに活躍するために必要なマインドセットとスキルの醸成を目的に、事前オリエンテーション、4回の英語オンラインレッスンの後、メインプログラムでは講師陣の講義を受け、さらにチームディスカッションを重ねた学生たちが最終プレゼンテーションを行った。(日本人応募は42名、コロナ禍前より継続して実施)

#### ③ かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト

ライフスキル教育で実績のある(特)青少年育成支援フォーラムへの委託事業として、国内在住の高校生・大学生を対象に、リーダーシッププログラムを実施した。2023年11月1日～22日の期間にオンライン研修及びオンデマンド研修を、12月9日・10日に1泊2日の合宿研

修をアルカディア市ヶ谷で実施し、高校生 9 名、大学生 14 名の計 23 名が参加した。（応募は 45 名、2022 年度から開始、本年度は 2 回目）

④ 高校生カンボジアオンラインスタディツアー

（公社）日本ユネスコ協会連盟と共催で、オンラインでのスタディツアーを 2023 年 8 月 19 日・20 日に実施した。3 校から 18 名の高校生が参加し、同連盟カンボジア事務所や現地寺子屋と中継でつなぎ、ユネスコによる国際協力の現場をオンラインで体験し、現地との「つながり」を感じる貴重な学びの機会を提供した。（応募校数 3 校、オンラインは 2020 年より開始、本年度は 4 回目）

⑤ 日 ASEAN ユースフォーラム（TASC）2023

日 ASEAN 友好協力 50 周年を記念し、パイロット事業として日本と ASEAN10 か国の大学生を対象とした「日 ASEAN ユースフォーラム」を国際交流基金と共催で実施した。日本の大学生 6 名と、ASEAN9 カ国から 24 名の大学生が参加した。3 テーマ 6 チームに別れ、夏にテーマ別にインドネシア、タイ、フィリピンを訪問し、11 月 18 日～26 日まで日本でのフィールドワーク、最終発表を行った。

(2) 国際交流事業助成

① 多文化共生地域ネットワーク支援事業

日本国内での多文化共生に向けた担い手育成とネットワーク形成のための研修会、ネットワーク会議および事業助成を実施した。昨年度の「多文化共生担い手ネットワーク会議」と同日に行った助成審査委員会で採択された 11 団体・個人の 2023 年度の活動に対し助成金 5,970 千円を支給した。採択団体、事業、助成額は以下のとおりである。

団体・個人名	事業名	助成金額
伊万里市国際交流協会	「多文化共食」による多文化共生コミュニティ拠点づくり	500,000 円
古賀尚子	外国人コミュニティと共に作るインクルーシブな活動拠点と人材育成モデル 第 1 弾「ベトナム語通訳翻訳者の養成」	500,000 円
特定非営利活動法人愛未来	佐賀大学外国人留学生に県内就職してもらう取り組み	500,000 円
一般社団法人広島湾地域資源ネットワーク	外国につながる高校生の進路支援事業の試み～広島県立高校での取り組みを通して～	700,000 円
一般社団法人舞台芸術制作室無色透明	ひろしま PCAMP2023 演劇によってもたらされる成功体験の重要性を実証・継続するために	500,000 円
特定非営利活動法人松山さかのうえ日本語学校	松山で見つけて育てる外国人新人社員	500,000 円

綾木和泉	中山間地域における多文化共生プロジェクト～社会的包摂の視点から～	500,000 円
特定非営利活動法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク	多文化共生おせっかえる計画	600,000 円
学校法人香川学園メロス言語学院	はじめが肝心！豊島区転入者のための生活日本語 支援講座	700,000 円
NGO ダイバーシティとやま	ムスリムの女性のキャリアサポートやライフサポートに繋がる「まちの多文化保健室」	470,000 円
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	地域のしごと みつける つなげる 場をつくる	500,000 円
	合計	5,970,000 円

2023 年 10 月から 2024 年 1 月にかけて岩手・愛知・兵庫の 3 会場で「かめのり多文化共生塾 2023」を開講し、各会場で前期・後期の計 4 日間の研修を実施した。

開催地（時期順） 協力団体（敬称略）	東海・北陸地区（愛知） 犬山国際交流協会	近畿地区（兵庫） （特）場とつながりの研究 センター	北海道・北陸地区（岩手） 奥州市国際交流協会
第 1 日 解説講義	2023 年 10 月 31 日（火）	2023 年 11 月 7 日（火）	2023 年 11 月 14 日（火）
第 2 日 解説講義	2023 年 11 月 1 日（水）	2023 年 11 月 8 日（水）	2023 年 11 月 15 日（水）
第 3 日 課題報告	2024 年 1 月 17 日（水）	2024 年 1 月 30 日（火）	2024 年 1 月 23 日（火）
第 4 日 事業計画発表	2024 年 1 月 18 日（木）	2024 年 1 月 31 日（水）	2024 年 1 月 24 日（水）
参加者数	12 人（11 団体）	9 人（8 団体）	9 人（6 団体）

2024 年 2 月 28 日には 3 会場の参加者を対象に「多文化共生の担い手ネットワーク会議」を開催し、各会場で事前に選定された 11 名より、次年度事業についての発表が行われ、2024 年度の事業助成金が採択された。（応募および参加 40 名、2022 年度より開始、本年度は 2 回目）

また、国内の多文化共生の担い手育成の新規開拓の一環として「多文化共生分野で活躍したい日本語パートナー経験者のためのステップアップ・ワークショップ in 関東・関西」を（独）国際交流基金と共催で、関東は 2024 年 1 月 20 日・21 日、関西は 2024 年 3 月 16 日・17 日に実施した。

## ② 連続セミナー

まず、2023 年 4 月から 5 月にかけて「日本における外国人と福祉のこれまでとこれから」と題したオンライン連続セミナーを全 3 回実施した。外国人支援および福祉を担う方々を対象とし、第 1 回「多文化共生時代の地域福祉・福祉制度の現状と課題」、第 2 回「多文化共生時代の地域福祉・外国人相談対応への配慮事項」と題して計 7 名のゲストスピーカーを迎え実施し、第 3 回は総括を行った。（申込・参加 164 名）

そして2023年12月には、「多文化共生の転換期」と題し全4回実施した。第1回「総論：転換期にある多文化共生のこれまでとこれから」、第2回・第3回「働き続けやすさ・暮らし続けやすさを確立するために、求められる取り組み・施策」、第4回「課題対応から基盤整備へ—民間助成機関はどう対応するか」と題して各回4名のゲストスピーカーを迎え実施した。(申込・参加325名、コロナ禍の2021年より開始、本年度で通算4回)

### (3) 海外日本語教育サポート事業

#### ① にほんご人フォーラム事業

(独)国際交流基金との共催事業の「にほんご人フォーラム」事業は、2024年からの集合フォーラムに向けた準備を行うとともに、東南アジア5カ国(インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア)が国内で行う「にほんご人フォーラム」関連事業を支援した。2012年よりスタートしたにほんご人フォーラム事業の成果をまとめた「にほんご人フォーラム10年のあゆみ」報告書を作成した。

(独)国際交流基金の海外拠点と共催で、以下の事業を実施した。

事業名	共催拠点	実施期間	参加者
中等教育日本語教師リーダー研修	ベトナム日本文化交流センター	2023年8月7日(月)~9日(水)	中等教育日本語教師22人
にほんご人フォーラム2023 in インドネシア	ジャカルタ日本文化センター	2023年11月10日(金)~12日(日)	生徒24名、教師12名、ファシリテーター教師6名
中等教育日本語教育リーダー教師育成プロジェクト	バンコク日本文化センター	2023年 通年	中等教育日本語教師14名
にほんご人フォーラム2023(マレーシア)~中等教育日本語教師キャンプ~	クアラルンプール日本文化センター	2023年 通年	中等教育日本語教師85名
にほんご人フォーラム2024 in フィリピン	マニラ日本文化センター	2024年1月25日~27日	生徒12名、教師6名

#### ③ ベトナム日本語教育への支援

2021(令和3)年度から3カ年事業として支援している「ベトナム初中等日本語教育教科書等作成・整備事業」は、引き続き、ベトナムの初中等教育において日本語教育の新カリキュラムに沿った教科書等の作成事業を、(独)国際交流基金ベトナム日本文化交流センターとともに支援した。2023年度は4,875,994円を助成した。

また、ベトナム日本語・日本語教育学会がハノイ工科大学で2023年8月5日に行った国際シンポジウム「世界をつなぐ日本語」に対して245.756.000VND(10480USD)助成した。

### 3. 国際交流および人材育成の講演・セミナー事業

#### ① 異文化理解講演会

フィリピン大学ディリマン校にて、国際交流基金マニラ日本文化センターの協力の元、2023年6

月 23 日・24 日の 2 日間にわたるフィリピン日本語教育講義ワークショップ「アジア言語講演会」を実施し、當作靖彦教授が基調講演とワークショップを行った。

また、2023 年 6 月 29 日に福山市立福山中・高等学校にて當作靖彦教授の講演「21 世紀のグローバル社会を生きる地球市民になろう」を実施した。参加者数は 609 名の生徒および教員だった。

2024 年 3 月 8 日には、国際交流基金バンコク日本文化センターとの共催で、中等日本語教育セミナー「21 世紀を生き抜く力ーこれからの中等教育で育成すべき資質・能力について」を、また 3 月 9 日には、タイ国日本語日本文化教師協会、カセサート大学、国際交流基金バンコク日本文化センターとの共催により、第 1 回タイ国日本語教育国際シンポジウムー「これからの社会に生きる力」ーを、タイ・バンコクにて実施し、それぞれ基調講演を當作靖彦先生が行った。参加者は、約 60 名と約 200 名だった。

さらに、2024 年 3 月 12 日にマニラで行われた、国際交流基金マニラ日本文化センターとフィリピン日本商工会議所主催の日本語教育特別講演会「日本語教育の未来を切り拓く」に協賛し、當作靖彦先生が講演を行った。参加者は 70 名を超えた。続く 3 月 13 日には国際交流基金マニラ日本文化センターとフィリピン大学言語学科主催の「第 38 回フィリピン日本語教師フォーラム」にも協賛し、當作靖彦先生が日本語教師向けのワークショップを行った。参加者は約 60 名だった。

## ② かめのりフォーラム 2024

「かめのりフォーラム 2024」を 2024 年 1 月 12 日にアルカディア市ヶ谷で開催し、第 17 回かめのり賞の表彰セレモニーおよび受賞団体の活動紹介、2023 年度のプログラム参加者による体験発表、そして産業能率大学教授の高原純一氏による特別講演を行った。

## 4. 国際交流および人材育成に関する顕彰事業

第 17 回かめのり賞は、かめのり大賞 2 部門（草の根部門、人材育成部門）、かめのりさきがけ賞、かめのり特別賞の計 4 団体を顕彰した。将来を見据えた、地道な努力で心の絆を深め、相互理解に貢献している団体・個人の活動を評価した。正賞のトロフィーと、副賞として 100 万円の活動奨励金を贈呈した。18 の団体・個人の応募があった。

【かめのり大賞 人材育成部門】 特定非営利活動法人 フィリピン日系人リーガルサポートセンター

【かめのり大賞 草の根部門】 特定非営利活動法人 アジア人文文化交流促進協会

【かめのりさきがけ賞】 特定非営利活動法人 YouMe Nepal

【かめのり特別賞】 特定非営利活動法人 シェア・ラニール＝市民による海外活協力の会  
(応募数 18 件)

## 5. その他

### (1) 広報活動の強化

新たなウェブサイトにて 5 月にスタートしたことにより、ニュースレターは廃止し、その代わり年次報告書を 2024 年 1 月に発行した。ウェブサイトを通じて当財団の事業、活動を動画等も交えて、幅広い対象にたいして発信・広報できるようにした。

引き続き、データベースの整備や、かめり財団の奨学生および財団事業に参加した OBOG が主導しての同窓会・ネットワークの構築をする。

## (2) IT の整備

財団ウェブサイトの大幅な改訂を実施し、2023 年 5 月にリニューアルしたウェブサイトを公開した。オンライン・プログラム等に対応できるインターネット環境の保守・維持を行い、サーバー、専用回線等 IT 環境の整備・充実をはかった。

以上